参考資料１

第３回町田市木曽山崎団地地区まちづくり連絡協議会
傍聴者意見

意見１

まず、資料１の日常の買い物の意見について、団地内のショッピングセンターに周りから人を呼び込むこと、そのための魅力づくりを行うこと、コミュニケーションの場として活用されることの重要性が指摘されています。また、資料 2-3　p.2 では、「20～39 歳」の「0～5 年前から」の居住が目立ち、p.3 で「公社町田木曽住宅」と「UR 住宅町田山崎団地」の「20～39 歳」の居住の実態があり、p.4 では「20～39 歳」の「二世代」居住が多くあることが読み取れます。以上の事実を踏まえ、現実には「山崎団地名店街」内の「ぽんぽこ広場」において、「団地内外」の「若い世代」である主に幼児とその母親の利用が特に平日の昼間に目立って見受けられます。また、その場所で子どもを安心して遊ばせることができ、母親同士のコミュニケーションの場にもなっているようです。加えて、町田山崎、町田木曽両団地名店街には、高齢者のニーズに応える日用品のみならず、子ども向けのダンススクールや図書館、医療・福祉関連の施設、店舗等、多種多様な要素が含まれています。したがって、***住棟だけではない「ストック活用」を（ショッピング）センター機能の活性化としてまず第一に取り組むべき***ではないでしょうか。資料４　p.5 の「ゾーニング（案）」では学校跡地活用の際、各要素の拠点づくりが示されていますが、各要素ごとに世代が偏って利用することになり、p.2 で述べられている「多様な世代、ライフスタイルの人達が集い、交流できる」ことにはなり得ないと思われます。その結果としてセンター機能は衰退してしまい、穴だらけの跡地転用が行われるだけとなってしまうと思います。***学校跡地活用はセンター活性化の次のステップとして捉え、各名店会の経営主、名店会役員、会長等の意見も積極的に取り入れた地区まちづくりの話し合いの場を設けるべき***だと考えます。